



大 銀 杏

喜多市立慶徳小学校 学校だより
令和2年1月17日(金) 第16号
発行責任者 校長 石田 秀喜

【教育目標】心豊かで、主体性のある児童の育成 ～育てよう夢 伸ばそう個性 伝統を受け継ぐ慶徳の子～

25年前のあの日・・・「阪神・淡路大震災」

◆ 夫も妻も、下敷きになった。手を握り合って助けを待った。

夫の声が聞こえた。「おれは、だめかもしれへん。子どもたちをたのむ。おまえは三途の川を渡るなよ。」

二人とも救助されたが、夫は死亡。41歳。

◆ 救助活動をしていた人が、娘を抱きかかえている父親の姿が、

すきまから見えた。かぶさるようにして、「パパがもうすぐ助けるよ。」と娘に声をかける33歳の父親の声がした。やがて父親の声が絶えた。娘も救出されたが二人とも病院に運ばれる途中亡くなった。

◆ 最初の揺れが去ったあと、いくつもの地区が火に包まれた。73歳の父親が、下半身をがれきにはさまれた。子どもたちが両手を思い切り引っ張った。火が迫ってくる。父親はおだやかに言った。「もう行け、もう行け」

————— 25年前の1995年の1月17日午前5時46分、あの阪神・淡路大震災が起き、死者6,434名の尊い命が奪われました。そしてその16年後の2011年3月11日午後2時46分に東日本大震災が。突然おそって来る自然災害の恐ろしさ。そして、逝った人たちの無念さと残された人たちの深い悲しみ。

あの日に思いを馳せ、改めて命の尊さと、命を守る術を子どもたちに伝えたい。



「だんごさし」をしました！！

14日(火)に1、2年生で「だんごさし」を実施しました。豊作や商売繁盛、家族の健康を願って行われてきたことや、作ったお団子を食べると元気に過ごせることなどのお話を聞いたあと、早速だんごづくりをしました。

今回は、小島美子さん、佐藤あかりさん、佐藤里奈さんの3名の方にお手伝いをいただきましたが、子どもたちも上手にだんごを丸めていました。

会終了後に、2年生は慶徳サービスセンターにだんごをさしたミズキを届けました。センターの皆さんもとても喜んでくださいました。

◆ インフルエンザにご用心！！

冬休み中にインフルエンザに罹患した児童が25名いましたが、3学期が始まってから今日までのところ、インフルエンザでの欠席者はありません。例年これからが流行のピークを迎えます。2回インフルエンザに罹患することも少なくありません。こまめな手洗い・うがいをはじめとして自分の身は自分で守る行動を。

◆ 今年度のスキー教室は・・・？

観測史上まれにみる暖冬、小雪の冬となっています。1月31日に予定しているスキー教室の実施も危ぶまれる状況にあります。現在実施する方向で、様々検討をしているところです。来週月曜日には、お知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。